入選

何のために働くの？

第六学年　A・A

人は、社会のために働くのだと考える。

なぜかというと、JRの職員は交通機関、薬剤師は病気の人々のために働いている。教師も「未来を作る子供たち」のために、システムエンジニアは「お客様の商品に不調が生じていないか」確認して修理している。

これらの仕事の共通点は「社会」。

電車がなければ移動しにくいし、教師がいなければ未来は変わらない。システム障害が生じても直す人がいなければずっと障害を起こしたまま。薬剤師がいなければ病気は治らない。

そんな世界が当たり前の国もあれば、そうではない国もある。例えば、日本がそんな世界だとしたら、スマホは壊れたまま、病気も治らない。それに、未来なんてものもない。

ユニセフのお陰で成り立っている国もある。

子供の私たちが次をつなぐ、カギとなるのだ。

働くことの意義とは、社会であると考える。

20 × 20